

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

AI時代の到来で大量生産型へ逆戻り 山田日登志 (PEC協会会長)

- 1990年代後半から急速に進んできた多品種少量のものづくりでは、より多くの工程を1人で担当する多能工が威力を発揮しました。でもここ数年で急速に人工知能(AI)が発達し、製造現場における効率化のあるべき姿も変わってきています。コンベヤー式に代表される大量生産型に戻るべき時が来ているのです。こんなことを言うと驚く方もいるでしょう。90年代以降、ソニーやキャノン、NECなどの現場で多能工を育て、その究極の姿である「一人屋台」を確立したのは、私だからです。
- しかし、人はやる気があればAIではかなわないくらいの能力を発揮する。でもやる気を失い、言われたことだけをやるサラリーマン体質に陥ってしまえば、目の前に流れてきたものに所定の処理をすればいいコンベヤーの方が管理が楽になる。そんな現場が今、日本で急増しているのです。
- AIが発達しているといっても現時点で一人屋台をさせるのは無理ですが、コンベヤーなら可能。会社が利益を出すために、人ではなくAIを搭載した機械を使うのは当然の結末です。日本企業がグローバル競争に勝つには、社員全員を、仕事を我が事として捉え、自らカイゼンできる「小さな経営者」に育てることです。

(参考:「日経ビジネス」2024年7月15日号)

経営者のための理念・哲学

素晴らしい知的遺産が生かし切れていない

田口 佳史 (東洋思想研究家)

- 日本には江戸時代の鈴木正三、石田梅岩から、明治時代の渋沢栄一に至るまで、非常に実践的でも精神性にも富む優れた伝統的経済論がありました。西洋の経済学に勝るとも劣らない素晴らしい財産があるのに、あまり着目されていないのはとても残念なことです。
- ただ私が言いたいのは、我々日本人はものすごい知的遺産を持っているということ。そしてそのことに自信を取り戻すべきだということです。欧米人が日本の偉人を熱心に研究し、日本を高く評価しているのは、逆に解釈すれば、素晴らしい知的遺産を生かし切れていない現代日本人が嘆かわしい、というメッセージでもあると思います。我われ現代日本人は、まずこのことを踏まえて改革に取り組むべきです。

(参考:「致知」2024年9月号)

人事・労務について

インド工科大学が日本企業を選ぶのは難しい

- 人口が中国を抜いて世界一になったインドで、モディ政権が3期目に入った。2029年の任期満了までにインドの経済規模は日本とドイツを抜き、世界3位になると予測されている。しかし、その割に日本企業の間で、「インドブーム」というほどの熱気は感じられない。何よりのネックは日本とインドの人的交流の乏しさではないか。23年5月時点でインドから日本への留学生はわずか1612人である。
- インド国内に23校あるインド工科大学は、米グーグルのCEO(最高経営責任者)など多くの人材を輩出したことで知られ、「入るのは米マサチューセッツ工科大学より難しい」といわれる。日本企業の認知度が低いと優秀な学生はエヌビディア、クアルコム、マイクロソフトなど米国企業にごっそりさらわれてしまう。日本を就職先として選ぶ理由は乏しい。

(参考:「週刊東洋経済」2024年7月13日号)

古典に学ぶ

ありのままの自分とは仏性のこと

- ただし、これは、我を通すことではありません。ここでいう「ありのままの自分」とは、私たちの中にある仏様と同じ性質、ぶつしょう仏性のことです。
- 私たちは、仏性を持っているにもかかわらず、欲や怒りや迷いなどの煩惱でそれを覆ったままです。しかし、いつまでも仏性を覆っていると、「苦」という地獄の中で生きなければなりません。

(参考:名取彦彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)